

中之島にぎわいの森シンボルツリーの景観特性に関する研究

現代システム科学域・環境システム学類・環境共生科学課程

安達ひかる（下村ゼミ）

1. 研究目的 近年、大阪では、水都再生への気運が高まり、特に中之島では水辺をみどりと遊歩道でつなぐ「中之島にぎわいの森づくり」の取り組みの一つとして、川沿いにシンボルツリーを植栽し、水辺の回遊性を高めている。本研究では、シンボルツリーを対象に、敷地内での植栽状況を捉え、情緒的評価から景観特性を探るとともに、植栽効果を明らかにした。

2. 研究方法 まず、近年の中之島における都市整備やイベントを文献・資料調査し、中之島の場所性を捉えた。次いで、2010年より整備が始まったシンボルツリー整備の対象敷地6箇所を調査対象に設定した。物的環境調査では、対象敷地の規模、シンボルツリーの植栽状況を捉えた。次いで、シンボルツリーを含む景観写真6枚を令和元年10月に撮影した。物的景観特性は、地点ごとに写真内の景観構成要素の画面構成率を近・中・遠景別に算出して捉えた（図1）。情緒的評価については、前述の6景を刺激写真とし、13対の情緒的語句を用い、シンボルツリーの植栽効果に関しては2項目を用いて、本学域学生45名を被験者として、5段階尺度による意識調査を実施して捉えた。解析では、6景に対する情緒的評価の平均評価点を算出して景観特性を把握し、シンボルツリーの植栽効果も同様に捉えた。

3. 中之島および周辺地区の場所性 江戸時代には蔵屋敷が立ち並んでいた中之島は、明治維新後、市民が利用できる公共的な場として発展した。戦後の地盤低下と度重なる水害による防潮堤の建設や水質の悪化により水辺が遠のくが、都市再生として水辺が注目され、中之島は親水空間の整備や「水都大阪2009」など様々なプロジェクトが展開されてきた。

4. シンボルツリーと周辺の景観特性 【シンボルツリーの植栽特性】樹種は6箇所全て常緑針葉樹のドイツトウヒであり、樹高は4.5～7.5m、幹周は0.2～1.1m、枝張りは1.9～4.8mである。植栽位置については、全て川沿いの遊歩道や広場内に位置しており、川面を走るクルーズ船などから視認できる。3箇所ではシンボルツリーのほぼ正面に船着場が位置し、2箇所では商業施設の側に位置している。6箇所とも植栽の背後には高層建築物が見受けられる。

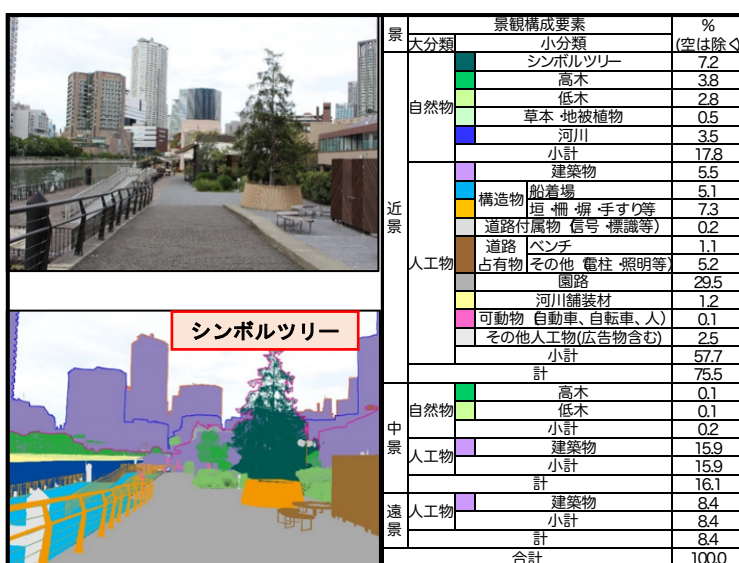


図1 刺激写真と画面構成率 (No.1 中之島バンク)

【情緒的評価】No. 6 城見緑道公園では、13 項目の平均評価点が 0.22~1.47 と全般的に評価が高く、No. 4 中之島公園芝生広場が-0.27~1.64 と続いている。一方、No. 5 八軒屋浜は-1.02~0.40、No. 3 西天満若松浜は-0.62~0.49 と全般的に評価が低く、No. 1 中之島バンクス、No. 2 ほたるまちが中庸となっている。項目別では、「明るい」、「きれいな」、「開放的な」、「広い」、「自然的な」の評価が No. 6、No. 4 において顕著に高くなっている。一方、「にぎやかな」が-1.02~0.22、「変化のある」が-0.51~0.58、「個性的な」が-0.47~0.49 と 6 箇所間での差が小さく、全般的に評価も低くなっている。【植栽効果】植栽効果については、I~IVの4タイプに分類された。[I:場所に対するシンボル性、場所に対する緑の供給性ともに高いタイプ]は、2景(No. 4、No. 5)あり、No. 4はシンボルツリーの画面構成率の割合は2.9%と低い、自然物の割合が62.4%と高く、緑が多い潤いのある景である。No. 5は自然物が49.6%であり、そのうちシンボルツリーが12.8%と高い。天満橋緑道入口から京阪天満橋駅まで高木が連なっており、多種多様な緑が捉えられている。[II:場所に対するシンボル性がやや高く、場所に対する緑の供給性が低いタイプ]は1景(No. 6)のみで、自然物の割合が59.1%と高い景であるが、シンボルツリーは7.7%と低い。[III:場所に対するシンボル性が低いタイプ]は、2景(No. 1、No. 2)あり、人工物の割合が高く、園路や建築物が大半を占める景である。No. 1は自然物が占める割合は18.0%と低いものの、シンボルツリーが7.2%と中庸であり、シンボルツリー以外の自然物の割合が少なくなっている。No. 2は自然物が占める割合は19.2%と低く、シンボルツリーは5.2%と低くなっている。[IV:場所に対するシンボル性、場所に対する緑の供給性ともに低いタイプ]は、1景(No. 3)のみで、園路、道路占有物(ベンチ)の割合が高く、人工物の割合がやや高い景である。自然物の割合は27.0%であり、シンボルツリーが占める割合は3.1%と低い。阪神高速1号環状線の高架下となっており、暗い印象となっている(図2)。

5.まとめ 6景の情緒的評価やシンボルツリーのシンボル性・緑の供給性については、その画面構成率の大小に影響し、視認率が高いほど評価が高くなる傾向を確認できた。しかし、No. 4 中之島公園芝生広場のように周辺に緑地が多い場合、その構成率は低くても自然物全体の構成率が高くなり、相乗効果として情緒的評価、シンボル性や緑の供給性も高くなることが分かった。従って、シンボルツリーを容易に視認できる場所に植栽することだけでなく、周辺の緑量の確保も必要といえ、敷地全体の核づくりを行うことにより、中之島全体における回遊行動を誘発するような拠点となりうると考える。

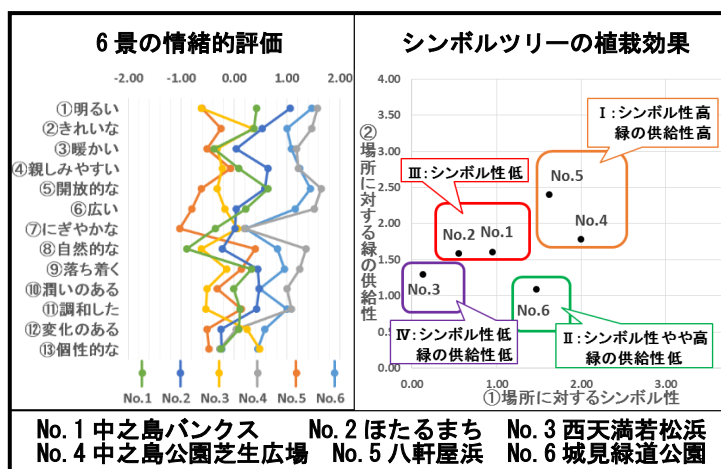


図2 6景の情緒的評価とシンボルツリーの植栽効果